

可能表現における対象格マーカー「が」「を」について —小説における実態調査—

田村 泰男

0. はじめに

本稿では、可能表現の中で対象格をマークするのに用いられる格助詞「が」「を」の出現状況を小説¹を資料として調査し、格助詞選択の実態及びその傾向を量的な面から明らかにすることを目的とする。

なお、今回考察の対象とするのは以下に挙げた可能表現²である。

1. 五段動詞の語幹 +e <ru>、一段動詞の語幹 +rare <ru> ³
2. ～できる
3. ～得る
4. ～かねる
5. ～にくい／～がたい、～やすい
6. ～て来られる／～て行ける、～ていられる、～てやれる／～てあげられる、
～てもらえる／～て頂ける

1. 五段動詞の語幹 +e <ru>、一段動詞の語幹 +rare <ru>

この章では先ず、五段動詞及び一段動詞における「が」「を」の出現状況について、それぞれを単純動詞⁴、複合動詞に分けて次の三項目について調べてみた。

- (1) 会話文か地の文か
- (2) 否定文か肯定文か
- (3) 対象語（句）が動詞の直前に位置しているか、いないか

これらを表にすると次のようになる。

五段動詞

(表1)

		会話文	地の文	手紙	否定	肯定	直前にある	直前にない
が	単	101	124	6	124	107	212	19
	複	6	20	0	15	11	21	5
格	計	107	144	6	139	118	233	24

を 格	単	60	69	1	49	81	91	39
	複	6	38	0	26	18	40	4
	計	66	107	1	75	99	131	43

一段動詞

(表2)

		会 話 文	地 の 文	手 紙	否 定	肯 定	直前にある	直前にない
が 格	単	11	28	0	19	20	32	7
	複	1	4	1	1	5	4	2
	計	12	32	1	20	25	36	9
を 格	単	21	31	0	21	31	45	7
	複	2	8	0	4	6	7	3
	計	23	39	0	25	37	52	10

(表1) (表2) から次のことが指摘できる。

- (1) それぞれの動詞群を全体としてみた場合、五段動詞の可能形は「が」格をとることが多いが、一段動詞の可能形は「を」格をとることが多い。
- (2) 五段動詞の場合、動詞が単純形の場合は「が」格をとることが多く (全体の64.0%)、複合形の場合は「を」格をとることが多い (全体の62.9%)。一段動詞の場合はいずれの場合も「を」格をとることが多い (単57.1%、複62.5%)。
- (3) 五段活用の単純動詞の場合、当該の文が否定文のとき「が」格をとる傾向にある。(全体の71.7%)
- (4) 五段活用の単純動詞の場合、対象を表す語句が動詞の直前に位置するときは「が」格をとる傾向にあり (全体の70.0%)、対象を表す語句と動詞の間に他の文構成要素をはさむときは「を」格をとる傾向にある (全体の67.2%)。

次に動詞が複合動詞でない場合で、3例以上用例を収集できたものを表にしてみることにする。

(表3)

	動 詞	「が」格	「を」格	動 詞	「が」格	「を」格
五 段 動 詞	言える	16	12	解ける	11	0
	産(生)める	1	4	撮れる	3	2

五 段 動 詞	買える	8	3	取れる	40	6
	書ける	6	1	登れる	1	2
	喰える	8	1	飲める	3	1
	解せる	3	0	離せる	3	1
	殺せる	1	12	防げる	0	3
	過ごせる	0	4	持てる	21	2
	抱ける	0	3	もらえる	7	3
	出せる	6	6	やれる	1	2
	使える	6	3	許せる	5	7
	擱める	21	3	読める	3	1
	つける	3	1	割れる	7	0
	作れる	11	1			
	一 段 動 詞	上(挙)げられる	7	0	確かめられる	2
受けられる		1	2	食べられる	2	3
得られる		6	5	付けられる	3	2
着られる		1	2	出られる	0	6
耐えられる		3	0	止められる	2	1

この表から明らかなように、可能形として用いられることの多い動詞は、五段動詞、一段動詞とも対象格として「が」格をとることが多いが、「生(産)める」「殺せる」「抱ける」「許せる」のように+humanのものを対象としてとることの多い動詞では、「を」格が用いられる傾向にある。

複合動詞で特徴的なことは、「～きれる」「～とれる」が全用例の半数以上を占めていることと、(表4)に示したように「～きれる」と「～とれる」では「が」格と「を」格の出現傾向が全く逆になっていることである。「～きれる」「～とれる」の持つアスペクト特性や表現されている「可能」の程度との相関性についても検討を加える必要がありそうである。

(表4)

可能形	「が」格	「を」格	計
～きれる	4	24	28
～とれる	11	4	15

2. ～できる

「～できる」と「が」「を」の分布

(表5)

「が」格をとる場合		「を」格をとる場合	
理解できる	17例	証明できる	8例
納得できる	9例	理解できる	4例
説明できる	3例	確保できる	3例
想像できる	3例	想像できる	3例
証明できる	3例	入手できる	2例
識別できる	3例	説得できる	2例
特定できる	2例	阻止できる	2例
解決できる	2例	無視できる	2例
判読できる	2例	使用できる	2例
諒解できる	2例	描写できる	2例
入手できる	2例	期待できる	2例
信用できる	2例	相談できる	1例
解明できる	2例	お願いできる	1例
我慢できる	2例	列挙できる	1例
類別できる	1例	獲得できる	1例
把握できる	1例	発見できる	1例
見通しできる	1例	指摘できる	1例
発見できる	1例	採取できる	1例
一望できる	1例	決断できる	1例
推測できる	1例	通過できる	1例
推察できる	1例	維持できる	1例
生産できる	1例	独占できる	1例
期待できる	1例	恐喝できる	1例
用意できる	1例	運転できる	1例
使用できる	1例	斡旋できる	1例
決行できる	1例	推理できる	1例
抑制できる	1例	報告できる	1例
望見できる	1例	用意できる	1例
解読できる	1例	否定できる	1例
完うできる	1例	選択できる	1例
維持できる	1例	一人占めできる	1例
始末できる	1例	入籍できる	1例
担当できる	1例	確認できる	1例
収容できる	1例	拜見できる	1例
予見できる	1例	リードできる	1例
照合できる	1例	生産できる	1例

節約できる	1例	任命できる	1例
		認識できる	1例
		証言できる	1例
		告白できる	1例
		監視できる	1例
		追跡できる	1例
		公表できる	1例
		信頼できる	1例
		キャッチできる	1例
		スパイできる	1例
		推量できる	1例
		続行できる	1例
		脱却できる	1例
		昇り降りできる	1例
		寄付できる	1例
		推定できる	1例
		疎通できる	1例
		差押えできる	1例
		再現できる	1例
		自己検証できる	1例
		往復できる	1例
	77例		78例

(表5) からわかることは「が」格、「を」格をとる用例数はほとんど同じであるのにも関わらず、「～できる」の異なり語数が違っていることである(「が」37:「を」57)。このことからすぐに「が」格が特定の動詞と共起しやすいとは言えないが、なんらかの傾向はありそうである。

次に、(1) 会話文か地の文か(2) 否定文か肯定文か(3) 対象語(句)が動詞の直前に位置しているか、いないかを調べてみたが傾向として言えることは、会話文の場合「を」格がしやすいということぐらいであった(「が」18例:「を」32例)。

3. ～得る

今回の調査では、「～得る」が「を」格をとる用例は24例集めることができたが、「が」格をとる用例は1例も見つからなかった。ここでは用例のみをあげておくことにする。

「～得る」と「が」「を」の分布

(表6)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
	禁じ得る 2例 知り得る 2例 落着け得る 1例 見つけ得る 1例 作り得る 1例 沈め得る 1例 決定し得る 1例 言い得る 1例 出し得る 1例 果たし得る 1例 要求し得る 1例 決め得る 1例 確かめ得る 1例 かけ得る 1例 咲かせ得る 1例 握り得る 1例 証言し得る 1例 満たし得る 1例 黙殺し得る 1例 疑い得る 1例 覚え得る 1例 加え得る 1例
	24例

4. ～かねる

「～かねる」も3.の「～得る」と同様、「を」格をとる傾向が強いと言えそうである。

「～かねる」と「が」「を」の分布

(表7)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
はかりかねる 2例	待ちかねる 3例 決めかねる 2例 はかりかねる 2例 触れかねる 1例 聞きかねる 1例 諦めかねる 1例

	納得しかねる 1例 決しかねる 1例 押えかねる 1例 判じかねる 1例 つかみかねる 1例
2例	15例

5. ～にくい／～がたい、～やすい

用例は少ないもののいずれの場合も「が」格をとることが多い。

「～にくい」と「が」「を」の分布 (表8)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
やりにくい 2例	つけにくい 1例
つかみにくい 2例	断わりにくい 1例
つけにくい 1例	保ちにくい 1例
とりにくい 1例	
しにくい 1例	
わかりにくい 1例	
打ち明けにくい 1例	
9例	3例

「～がたい」と「が」「を」の分布 (表9)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
耐えがたい 2例	
つけがたい 1例	
さだめがたい 1例	
得がたい 1例	
信じがたい 1例	
6例	

「～やすい」と「が」「を」の分布 (表10)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
やりやすい 4例	与えやすい 1例
しやすい 1例	かぶりやすい 1例

数えやすい	1例	采配しやすい	1例
狙いやすい	1例	打ち明けやすい	1例
飼いやすい	1例		
8例		4例	

6. ～て来られる／～て行ける、～ていられる、～てやれる／～てあげられる、 ～てもらえる／～て頂ける

これらはいずれも前項の部分が「て」形となっており、1. 五段・一段活用のところであげた前項が連用形である複合動詞と比べて、前項と後項の結びつきが弱い。そのため対象が前項+後項全体で受けられるというよりは、可能の意味が直接関与しない前項のみで受けられることが多いと思われる。このため「を」格が用いられることが多いのであろう。

「～て来られる」と「が」「を」の分布 (表11)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
続けて来られる 1例	埋めて来られる 1例
	買って来られる 1例
	持って来られる 1例
1例	3例

「～て行ける」と「が」「を」の分布 (表12)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
	深めて行ける 1例
	通して行ける 1例
	引いて行ける 1例
	続けて行ける 1例
	4例

「～ていられる」と「が」「を」の分布 (表13)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
眺めていられる 1例	していられる 2例
開けていられる 1例	聞いていられる 1例
	我慢していられる 1例
	忘れていられる 1例
	憶えていられる 1例

	開けていられる 1例 続けていられる 1例 祝っていられる 1例 言っていられる 1例 掘り返していられる 1例
2例	11例

「～てやれる」と「が」「を」の分布

(表14)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
	してやれる 3例 買ってやれる 1例 見つけてやれる 1例
	5例

「～てあげられる」と「が」「を」の分布

(表15)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
	してあげられる 1例 かまってあげられる 1例
	2例

「～てもらえる」と「が」「を」の分布

(表16)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
	見せてもらえる 2例 教えてもらえる 2例 聞かせてもらえる 2例 呼んでもらえる 1例 回してもらえる 1例 出してもらえる 1例 信頼してもらえる 1例 見てもらえる 1例 変えてもらえる 1例 読んでもらえる 1例 貸してもらえる 1例 いうてもらえる 1例 開けてもらえる 1例 割いてもらえる 1例

	持って来てもらえる 1例 見させてもらえる 1例 拝見させてもらえる 1例
	20例

「～て頂ける」と「が」「を」の分布

(表17)

「が」格をとる場合	「を」格をとる場合
拾って頂ける 1例 わかって頂ける 1例	おっしゃって頂ける 2例 教えて頂ける 2例 見て頂ける 2例 認めて頂ける 1例 頒けて頂ける 1例 話して頂ける 1例 紹介して頂ける 1例 調べて頂ける 1例 読んで頂ける 1例 見せて頂ける 1例
2例	13例

7. おわりに

以上の結果をまとめると(表18)のようになる。

格選択でゆれていると言えるのは(1)五段動詞の語幹 + e <ru>、一段動詞の語幹 + rare <ru> (2)～できる(3)～にくい/やすい、であるが、今回は量的な面からの特徴のみを指摘することとし、複合動詞の取り扱い等、詳細については今後の課題としたい。

(表18)

	「が」格をとる場合	「を」格をとる場合	計
五段語幹 + eru	257例	174例	431例
一段語幹 + rareru	45例	62例	107例
～できる	77例	78例	155例
～得る	0例	24例	24例
～かねる	2例	15例	17例
～にくい	9例	3例	12例
～がたい	6例	0例	6例

～やすい	8例	4例	12例
～て来られる	1例	3例	4例
～て行ける	0例	4例	4例
～ていられる	2例	11例	13例
～てやれる	0例	5例	5例
～てあげられる	0例	2例	2例
～てもらえる	0例	20例	20例
～て頂ける	2例	13例	15例

<注1>用いた資料

人間万事塞翁が丙午（青島幸男）、夜と霧の隅で（北杜夫）、白い人・黄色い人（遠藤周作）、二十一歳の父（曾野綾子）、砂の女（安部公房）、江分利満氏の優雅な生活（山口瞳）、猟銃・闘牛（井上靖）、寝台特急18時56分の死角（津村秀介）、新オリエント急行殺人事件（森村誠一）、点と線（松本清張）、急行もがみ殺人事件・寝台特急「北陸」殺人事件（西村京太郎）、多摩湖畔殺人事件（内田康夫）、卑弥呼殺人事件（阿井渉介）、京都新婚旅行殺人事件・京都奠祭殺人事件（山村美紗）、黒白の旅路（夏樹静子）、鎌倉薪能殺人事件（斎藤栄）、器に非ず（清水一行）、黒パン俘虜記（胡桃沢耕史）、縦走路（新田次郎）、修羅の峠（西村寿行）、餓鬼岳の殺意（太田蘭三）、悪魔岬（笹沢左保）、広き迷路（三浦綾子）、連笑・ぼくの猿ぼくの猫・百・永日（色川武大）、越前竹人形・雁の寺（水上勉）、能師の妻・野辺の露・宵待草夜情・花虐の賦・未完の盛装（連城三紀彦）、逃げる・乾いた肌・嘘・宣告・來雜遺留品・娘の手・楽しい財産・不吉な遺産・告発手記・白い死体（佐野洋）、仮釈放（吉村昭）、北都物語（渡辺淳一）、総会屋錦城・輸出・メイドインシャパン・浮上・社長室・事故専務・プロペラ機着陸待て（城山三郎）、幼児狩り・劇場・塀の中・雪・蟹・夜を往く（河野多恵子）、死者の奢・他人の足・飼育・人間の羊・不意の啞・戦いの今日（大江健三郎）

<注2>

先の国立国語研究所の調査（「現代雑誌九十種の用語用字〈3〉分析」1964秀英出版）から明らかのように、「できる」「わかる」が対象格として「を」格を取ることはほとんどないと考えられるので、ここでは調査の対象としない。

<注3>

「見える」「聞こえる」及び思考動詞「考えられる」「信じられる」等は調査対象から外した。

<注4>

この章では、形態的に複数個の動詞が集まって、それが一つの動詞のように機能するものを複合動詞とよび、それ以外を単純動詞とよぶことにする。但し、前項が「テ」形をとるもの（eg. みてとる）は、扱わない。